

こぼす愚痴黙って拾う夫の添う

田中 たづ子

見栄を捨て気楽な風が吹いて来た

竹本 タエ子

年寄りのあるあるいよよ吾にも来た

戸田 粧子

きつとある必ずあるが見つからず

藤井 節子

遠メガネで見てた米寿 無事通過

佐藤 哲夫

こぼすぐちだまってひろうつまのそう

たなか たづこ

みえをすてきらくなかぜがふいてきた

たけもと たえこ

としよりのあるあるいよよあにもきた

とだ まさこ

きつとあるかならずあるがみつからず

ふじい せつこ

とおめがねでみてたべいじゅぶじつうか

さとう てつお

茶筌塚も針塚も有り梅真白

村瀧 富子

丁寧に靴を磨きて春を待つ

三戸 志津江

枝間よりまさをなる空梅祭

金内 憲一

蜆汁みやげ話は訛り気味

馬場 精作

春夕焼砂場に小さき山二つ

藤岡 久美子

ちゃせんづかもはりづかもありうめましろ

むらたき とみこ

ていねいにくつをみがきてはるをまつ

みと しづえ

えだまよりまさをなるそらうめまつり

かねうち けんいち

しじみじるみやげばなしはなまりぎみ

ばば せいさく

はるゆやけすなばにちさきやまふたつ

ふじおか くみこ

傘持たぬ夫を追いかけて差し掛ける
丸き背中に雨の強まる

河野 美津子

レクイエム世界中から響く中
小澤の光強く輝く

山口 正子

ママ笑ってとがった心がふとゆるみ
今日の私はゆっくり歩く

賤間 星

「転けさんな」帰省する度息子云う
骨折したら我家は無理と

川本 禮子

手の平で麴の塊もみほぐす
「旨い味噌できて」話しかけたり

江川 詳子

かさもたぬおつとおいかけさしかける
まるきせなかにあめのつよまる

かわの みつこ

れくいえおせかいじゅうからひびくなか
おざわのひかりつよくかがやく

やまぐち まさこ

ままわらってとがったところがふとゆるみ
きょうのわたしはゆっくりあるく

ざいま ほし

「こけさんな」きせいするたびおすこいう
こっせつしたらわがやはむりと

かわもと れいこ

てのひらでこうじのかたまりもみほぐす
「うまいみそできて」はなしかけたり

えがわ しょうこ

自由律俳句

ありったけの感謝を伝えて電話を切る

権代 祥一

四円切手たす手紙の重さ

松下 満江

頭痛をこえる医師の笑顔

岡部 雅江

北風 口笛吹いて梅に近づく

田中 律子

故里のご縁ありがたい清少納言

吉野 俊夫

ありったけのかんしゃをつたえてでんわをきる

ごんだい しょういち

よえんきってたすてがみのおもさ

まつした みつえ

ずつうをこえるいしのえがお

おかべ まさえ

きたかぜ くちぶえふいてうめにちかづく

たなか りつこ

ふるさとのごえんありがたいせいしょうなごん

よしの としお